



第52回卒業証書・第23回専攻科修了証書授与式



NIT, Gifu College

岐阜高専 だより

National Institute
of
Technology,
Gifu College

第135号

2019.3.31

独立行政法人 国立高等専門学校機構
岐阜工業高等専門学校

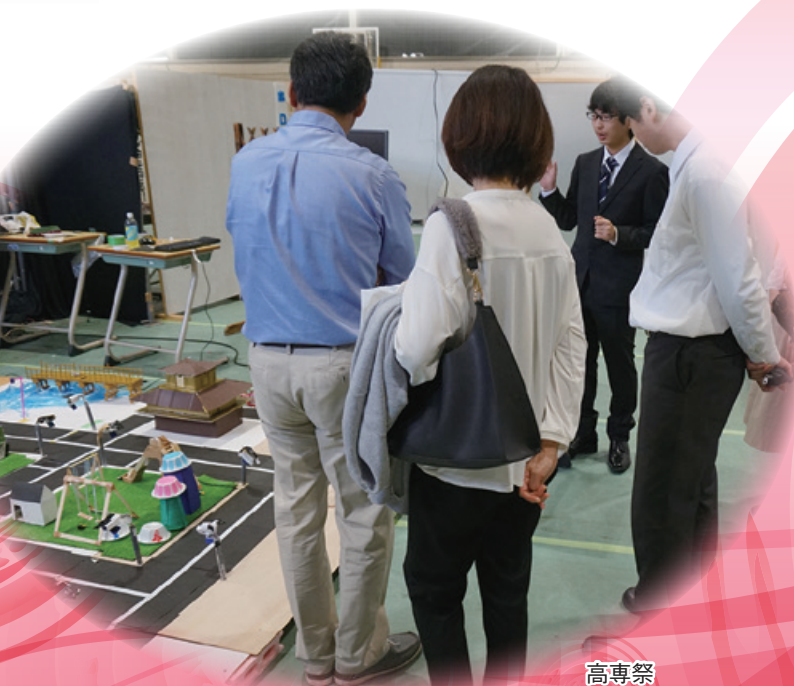
〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑 2236-2

TEL : 058-320-1211

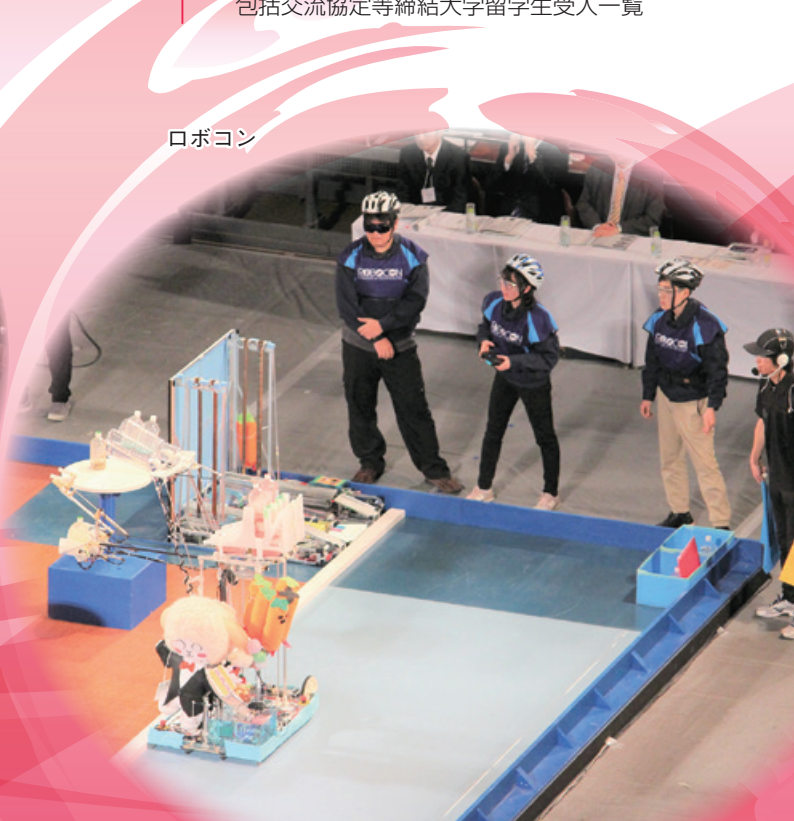
H P : <http://www.gifu-nct.ac.jp/>

CONTENTS

- 2 校長所感
- 3 研究主事・寮務主事所感
- 4 卒業生代表の言葉
- 5 卒業生への言葉
- 6 修了生代表の言葉
修了生への言葉
- 7 研究題目
- 10 卒業・修了証書授与式
- 11 卒業生・修了生進路状況
- 12 退職教職員あいさつ
- 13 高専祭（専門展）
- 14 研修旅行 4年
- 15 研修旅行 3年
- 16 学生受賞等
- 17 教職員受賞コメント
- 18 校内ニュース
- 19 コンテスト報告
- 20 クラブ紹介・同好会紹介
海外インターンシップ派遣者一覧
包括交流協定等締結大学留学生受入一覧



高専祭



ロボコン



岐阜高専の近況

校長 伊藤 義人

岐阜高専の校長に就任して3年が過ぎようとしています。今年度は、日常の教育研究だけでなく、1) 2つの高専4.0イニシアティブプロジェクト、「地域に根ざした次世代を担う課題解決型グローバル人材育成事業」と「コンピテンシーを高めやり抜く力(Grit)を育む高専キャリア教育」、2) 3年目のグローバル高専事業、3) 5年目のAP事業(大学教育再生加速プログラム)、4) 3年目の情報セキュリティー人材育成事業、5) 全国高専フォーラムの主幹校など多くの事業を実施しています。この中で、現時点で来年度に残るのはAP事業(2019年度まで)で、4)の情報セキュリティー人材育成事業と2)の進化形である「グローバルエンジニア育成事業」は、来年度再応募となります。

グローバル高専事業と高専4.0イニシアティブと共同で、昨年に引き続き第2回ESDPR&EE2019国際セミナーを岐阜国際会議場で平成31年1月17日に開催しました。4ヶ国12名の海外協定大学教員に発表いただき、岐阜高専、明石高専、富山高専からも発表とポスターセッションを行いました。今回の特徴は、専攻科学生の発表が多いのが特徴でした。専攻科学生の口頭発表は、非常に上手で、マレーシア工科大学のHo教授からお褒めの言葉をいただきました。40件近いポスター発表も行われました。運営にも学生が活躍してくれました。

グローバル高専事業の一環として夏休みに行われた、米国シアトルへの研修旅行には、定員以上の応募があり、選考の結果36名の学生を派遣し、大変有意義なものになりました。見学だけでなく、米国の技術者との交流やホームステイなどもあり、参加学生は大変満足したようです。帰国後に報告会をして、行けなかった学生へその内容を伝えました。来年度も、同様な研修旅行を実施する予定です。短期留学生の受け入れや日本人学生の海外派遣も活発に行っています。

また、2020年度から始まることになった、連携教育プログラムに岐阜高専は今年度採択され、豊橋技術科学大学と連携して、専攻科学生の教育の高度化を実施予定です。今年度は、全国で2億円の予算がついてい

ましたが、準備のための人件費や施設整備の予算が岐阜高専にも措置されました。2019年度にも予算を要求する予定ですが、その他の大学との連携教育プログラムも考えるかが今の課題となっています。

全国高専体育大会、ロボコン、全国デザコン(釧路)などでも学生はよい成績を挙げています。柔道部の全国完全優勝やデザコンでの審査員特別賞などは特筆されます。学術発表でもよい実績を残し、先日校長特別表彰をしました。

来年度の推薦入試の応募者も多く、女子生徒の応募が全体の約40%と大きな伸びを示しました。建築学科の希望者が多いのですが、環境都市工学科や電気・情報工学科への希望も多くなっており、高専の多様化に貢献すると思います。これまでも、女性教員の採用を積極的に行ってきており、建築学科には2名の女性教員が既に活躍しています。今後も教員公募に女性教員が多く応募していただけるのを期待しています。

第4期中期目標・中期計画の始まる2019年度(平成31年度)予算の内示があり、悲願であった毎年度予算の削減(効率化係数と称し、人件費1%、物件費3%の削減)は、残念ながら止まりませんでした。そのかわり、特別経費の一般財源化が可能となり、2つの特別経費が一般財源化されました。今年度からついた学生支援の特別経費もその1つであり、折角手厚くした学生支援のための経費が効率化係数などによる削減によって少なくなる可能性があることは痛し痒しです。高専機構全体の予算は、名目上1億円増額になっていますが、単年度のひも付き項目が多く、通常経費は相当厳しい状況であり、効率化を図るとしての人件費の抑制を迫られています。高専教育の優れた部分を阻害しないように、また、教職員の働き方改革にも留意しながら、教職員と一緒に何とかこの難局を乗り切りたいと思っています。

研究主事・寮務主事所感



「学び続ける力」 を育む

副校長（研究主事） 和田 清

今年1年間、皆さんはどのような学生生活を過ごし、満足度はどの程度だったのでしょうか。

高専は大学とも専門学校とも違う、本科5年制、専攻科2年制の学部教育を担う高等教育機関です。半世紀を超える歴史と、全国に国立51校、現役学生約5万人、卒業生は約50万人という規模です。

現在、本校は、社会の要請を受けて時代の変化に対応している段階です。文科省の教育AP事業によるICT環境整備や学習支援コンテンツの開発など、自学自習できるツールが揃っています。また、昨年は学生全員を対象として、社会で求められる能力・態度・志向（ジェネリックスキル）を育成するためのPROGテストを受検してもらいました。知識を活用して問題を解決する力（リテラシー）と経験を積むことで身についた行動特性（コンピテンシー）の2つの主要な観点

で分析し、自ら学び続ける力に加えて、やり抜く力（Grit）、チームで働く力、一歩前に踏み出す力などがどの程度身についているか、自分の強みや課題は何かなどの参考になったと思います。高専にはロボコン・デザコン・プロコンなどの各種コンテストなどがあり、具体的な課題解決策を自ら見出す社会実装実験の場所でもあります。

また、本校は、海外8ヶ国14大学と包括交流協定を締結しています。今年1月には、グローバル高専事業等により、6大学と第2回国際セミナーを岐阜市長良川国際会議場にて開催しました。英語による研究発表21件の内、専攻科生6名が口頭発表、その他専攻科生は英語ポスター発表を行うなど、「英語に強い高専生」の一面を披露してくれました。

よく言われていることですが、目まぐるしく変化する社会を生き抜くためには、生涯学び続ける力が必要です。日本でもキャリア・チェンジ、キャリア・アップがあり、その背後には必ず学修する努力があります。学習歴の存在は万国共通で、学修によって社会人を向上させることが有力な人生戦略だと考えます。早期専門教育を特長とする高専教育の学びの質を向上させる取組みに、皆さんの気づきと行動を期待しています。



4年間を振り返り

副校長（寮務主事） 麻草 淳

高専だより「寮務主事所感」に寄稿させていただくのも4度目となりました。過去3回は「寮生活」と題し、その時々感じたことを書かせていただいていたのですが、最後となる今回は4年間の寮生との関わりを振り返り、2つの話題を取り上げることにします。

まずは「1年生に対する指導の見直し」です。男子寮の指導について、行き過ぎと言われた部分の見直しを行いました。何のために、何が必要で、どのように指導するのか、A寮指導寮生との話し合いを重ね、移行期間を経て、昨年度から新しい体制でスタートしました。女子寮においては、長年に渡り先輩との相部屋としてきた1年生の居室配置を、今年度から1年生同士としました。女子寮内には低学年が気兼ねなく使用できる談話スペースがないため（A寮にも似たような構図がありますが）、各居室に集まりやすい状況をつくるのが主な目的です。

これらの見直しによって、男女共に1年生のストレスは軽減されたものと思いますが、その分、ルーズな部分も出てきている様子です。旧体制で過ごした学生、保護者からは、寮生活ならではの「教育的効果」が薄れるのではと心配の声が寄せられるなど、その成果については少し長い目で確認していく必要があります。寮生諸君には、規制緩和が進む一方で、各自の自律や責任ある行動が強く求められていることを忘れずに生活して欲しいと思っています。

2つ目は「寮棟玄関の放置靴」についてです。何とか任期中に玄関から放置靴を一掃できないかと様々なトライをしてきました。男子上級生が居住するD寮について、指導の効果が上がらず諦めかけていたところ、D寮担当教員のアイデアをきっかけに、昨秋から綺麗な状況が続くようになりました。全寮棟で放置靴がない今の姿が、雄志寮の「当たり前基準」として継続されていくことを願います。

最後に、来年度、男子寮の1つであるB寮の改修工事が行われることになりました。留学生との混住、女子寮生用のフロアを配置する計画で、これをきっかけに寮全体の学生配置が大きく変化する可能性があります。保護者の皆様におかれましては、学寮運営に引き続き御理解と御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

卒業生代表の言葉



高専での5年間

機械工学科 第5学年 高木 勇気

この5年を思い返すと、さまざまな出来事が思い浮かびます。入学した当初は90分授業に慣れることができず、勉強の難しさも相まって大変な思いをすることも多かったです。また、時には徹夜もしたテスト勉強、溜まっていくレポートなど苦労したことは数え切れません。しかし、高専祭での専門展や、創生工学実習、部活に研修旅行など仲間と協力し合った楽しい思い出がたくさんできました。

このように長いようで短かった5年間では多くの経験をし、学び、圧倒的成長することができたと感じています。

今まで支えてくれた家族や先生方、大切な仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。高専で得たことを活かして社会に出てからも頑張っていきたいと思います。



5年間の高専生活

電気情報工学科 第5学年 長澤 紘汰

この5年間は、様々な知識、経験や仲間を得ることができた、本当に濃厚な時間でした。1年生の頃は、授業や学校行事に無我夢中で取り組みました。学年が上がるにつれて専門科目への理解が深まり、多くの知識や技能を身につけました。進路を決める際には担任の安田先生が親身に相談に乗って下さり、さらに、悪鬼羅刹のごとき面接練習でしごいて頂きました。これからは、高専で得た財産を元手に、技術者として大きく飛躍します。

最後に、5年間をともに過ごした仲間をはじめ、先生方や今まで育ててきてくれた両親に深く感謝します。最高の環境を与えて頂き、本当にありがとうございました。



5年間の高専生活を振り返って

電子制御工学科 第5学年 正村 凌雅

高専で過ごした5年間はとても長く感じました。同じ中学の知り合いが進学や就職など、一足早く次のステージに進んでいるのに対し、閉塞された空間で変わらない毎日を過ごすことに焦りを感じつつも、私は赤点ギリギリを低空飛行して何にも打ち込めず、怠惰な生活送っていました。

しかし、就職活動で大学生と交流してみると、そんな自分にもきちんと身につけているものがあることがわかりました。そこで初めて、深い知識や見識を持った先生方の指導の素晴らしさを実感することができました。

何も残せず何も為さなかった高専生活でしたが、多くの先生方、5年間一緒だったクラスメイトとの思い出だけは残っています。この場所で得た思い出を胸に新天地でも頑張りたいと思います。

最後に今まで私を支えてくれたすべての人へ、ありがとうございました。



卒業生代表の言葉

環境都市工学科 第5学年 土井 創史

高専での5年間という時間は気づいたら終わりを迎えます。低学年ではハンドボール部に所属し、良い成績こそ残せなかったものの仲間との辛かった練習も今ではいい思い出です。特に中学生に負けたのは印象が強いです。高学年になるにつれて専門的な教科も増え、その知識を披露する専門展は仲間との絆をより深める場となりました。様々な経験を重ねることにより技術者として大きく成長することのできる場所だったと感じています。ここでの経験を大切にこの先の進路を歩んでいこうと思います。

とても恵まれた環境で学生生活を送れて感謝の気持ちがいっぱいです。5年間お世話になった先生方、クラスの皆、部活の仲間達、本当にありがとうございました。



卒業生代表の言葉

建築学科 第5学年 桂川 太一

入学してから高専で過ごした5年間は長く密度の濃い時間だったと思います。高専での専門的な授業や球技大会、高専祭、専門展、研修旅行やラグビー部の活動など数えきれないほどの思い出が出来ました。この5年間でたくさんの仲間と築き上げてきた思い出や経験は私にとってかけがえのないものです。

そんな高専生活で私は、いろんな人が様々な考えをぶつけたり、共有したりする事で面白い発想やより高い目標に辿り着く事を学びました。

最後になりましたが、今まで育ててくれた両親、お世話になった先生方、クラスの皆、支えてくれたラグビー部の後輩たち、本当にありがとうございました。

卒業生への言葉



卒業生へ

機械工学科 第5学年担任 山田 実

ご卒業おめでとうございます。このクラスは1年生の時、ものづくりリテラシー教育実習で私の班にクラスの半分が参加してくれてそのときからの付き合いになります。その他にも、スターリングエンジンを夜遅くまで作ったこと、フェリーで九州へ行ったことなど様々な思い出があります。

皆さんが卒業され、それぞれの立場で活躍されることが教員の一番の喜びです。OB訪問や高専祭など機会があればまた岐阜高専に遊びに来て話を聞かせてください。困ったことや相談事があれば機械工学科教員一同いつでも待っています。



とある師匠と弟子の関係に見る何かしら

電気情報工学科 第5学年担任 安田 真

さて、PauliはWeisskopfという助手を得た。とは言え、“He could not get another brilliant researcher named Bethe.” ことによる次善の選択であった。大先生はWeisskopfに“the second choice”であることをくどくど説明した後、簡単な問題を与えた。数日後、結果を見るやいなや大先生は叫んだ。“I should have taken Bethe !”

続いて重要な問題に取り組んだWeisskopfだったが、論文の結論において、重大な計算ミスを行った。WeisskopfはPauliの元に向かうと悄然として告げた。“I have to give up Physics.” すると大先生はこう返したそうだ。“Oh, no. Don't worry. There are many people who make mistakes in their papers ---- I, never.”



卒業生への言葉

電子制御工学科 第5学年担任 栗山 嘉文

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。月日が経つのは早いもので、未だに1年生だった頃の顔が目には浮かびます。しかし、最初の頃は、どこか不安げだった顔も、いつのまにか自信にあふれた顔になっており、成長を感じております。

卒業をするにあたり、今までとは異なった環境に慣れるまで不安な日々が続くかもしれません。また、失敗をしてしまい落ち込むことも多々あるかもしれません。そんなときは、もう一度、本校で過ごした日々を思い返してみてください。自分が数年間、一生懸命頑張ってきた高専での日々は、きっと心の支えになると思います。

最後に、これからの皆様の御健康と御活躍を心より期待しております。



卒業生へ贈る言葉

環境都市工学科 第5学年担任 岩瀬 裕之

ご卒業おめでとうございます。

人生100年時代ともいわれています。皆さんは1/5の20年がようやく終わったにすぎません。この20年間さらにその1/4の高専の5年間は濃密な時間であったと思います。授業、実験・実習、課外活動などを通して様々な力をつけられたと思います。皆さんがでられる社会では、働き方改革、生産性革命、人工知能、ロボティクスなどの言葉がかまびすしく取り沙汰されています。皆さんにも多様な能力が要求されるようになると思います。しかし、高専で身につけた力を基に、今後も研鑽して実力をつけられて残り80年活躍されることを祈っています。皆さんならできます。



卒業生へ

建築学科 第5学年担任 青木 哲

ご卒業おめでとうございます。卒業という節目を迎えて、岐阜高専での数々の“おもひで”とともに、“私はワタシと旅にでる。” 的に、皆さんは新たなステージへと進みます。各々の道を進む上では、“トンネルのむこうは、不思議の街でした。” という状態になるかもしれません。そんな時、“カッコイイとは、こういうことさ。” と意地を張る必要はありません。格好悪くて良いと思います。健康第一。肉体面だけでなく、メンタル面の健康も重視して下さい。すなわち、“生きる。” です。“おちこんだりしたけれど、私はげんきです。” 程度に無理をしないことです。“こんなことを書くへんないきものは、まだ岐阜高専にいるのです。たぶん。” ということで、皆さんとの再会の日を楽しみにしています。

修了生代表の言葉



修了にあたって

先端融合開発専攻 2年次 廣瀬 有樹

私が岐阜高専で過ごした7年間は、楽しい思い出もあれば、苦しく辛かった思い出もたくさんあります。しかし、どんな時でも私の周りには仲間という存在がありました。難しい課題やテストも、乗り越えられたのはひとえに仲間のおかげであると言えます。特に、専攻科では、研究の時間が多く、課題なども研究室で行うことが多い中、私の研究室は同級生が私を含めて4人いました。それにより、課題なども教えあってこなすことができ、仲間の大切さをより実感しました。また、プライベートでも共に過ごすこともあり、良い経験となりました。7年間私を支えてくれた仲間、そしてお世話になった先生方に感謝します。

これから私は就職し、社会人となります。困難な事がたくさん起きると思います。そのため、これから会う新しい仲間（同僚）と岐阜高専の時と同じように助け合って困難を乗り越えていきたいです。またその時は、今までは仲間が助けてもらうことが多かったのですが、今度は自分が周りを助けられるように頑張りたいです！

修了生への言葉



修了生への言葉

専攻科長 北川 秀夫

専攻科修了おめでとうございます。皆さんは岐阜高専専攻科23回目の修了生になります。という文章を読んでしみじみするのは教職員だけだと思いますが、高専に専攻科ができた当初はその認知度が低く、待遇一つとっても、大学学部卒に比べて専攻科卒を低くする企業が多くありました。

しかし、実際に（他高専も含めて）専攻科から社会に出た先輩達の活躍は目覚ましく、その結果、今や多くの企業が大学生よりも専攻科生を求めています。それは私自身がこの5年間就職担当をして強く感じました。また、大学や高専の教員としても、数多くの専攻科出身者が活躍しています。

皆さんはこれから進学・就職して新たな一歩を踏み出しますが、高専専攻科で学んだという経験を自信として下さい。これから様々な試練が待ち構えていると思いますが、過去に自信が持てれば自然と前向きに進んでいけると思います。皆さんの今後の活躍を大いに期待しています。



修了生への言葉

専攻科長補佐 犬飼 利嗣

専攻科修了おめでとうございます。皆様に心よりお祝い申し上げます。君達は、本科から7年間にわたる長い学生生活に終わりを告げ、社会人や大学院生として新しい門出に立ちました。これから先にある道は、往々にして平坦ではなく時には大きな壁として立ちちはだかり、不安に陥ることも度々あるかもしれません。しかし、とにかく自分自身を信じ、立ち留まることなく、一步一步でよいので常に前を向いて進んでいただきたい。

君達は、本科および専攻科を通じて「実践的かつ専門的な知識と融合した先端技術」を体得した実践的かつ創造的な技術者です。人を信じて合い、そして助け合い、勇気と希望をもって自己研鑽に励めば、必ず道は開かれ奏功すると信じています。地道でもよい信頼される人物となり、謙虚さを以て人と協調し、我が国の技術を牽引すべく大きく羽ばたいてください。本校の専攻科を修了した君達は誇りであり、これから開拓される道のりに大いに期待しています。

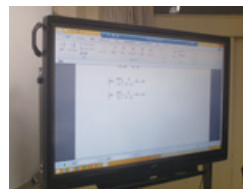
APによる岐阜高専のICT活用教育改革2018

教育 AP 推進室長 所 哲郎

岐阜高専も参加する大学 ICT 推進協議会の2018年度年次大会が、前年11月に札幌で開催されました。この分野の世界最大の団体である米国 EDUCAUSE 理事からの基調講演の他、多くの大学・企業参加のある活気に満ちた会議でした。

さて、岐阜高専の文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP）テーマⅠ・Ⅱ複合型事業についても、本校で3月8日に年度末成果報告会を開催しました。本校は全国高専で最も優れたNGDLE（次世代電子学習環境）を構築できています。そのコンテンツ群による、「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも・どこまでも」をICT活用教育改革の理念として、可視化と共有を進めています。

先の基調講演の内容を岐阜高専の関係者全員に伝えれば、これらの大切な「ICT活用教育資産」を守り運用し育てていくことです。本校関係者全員で全国からの注目を意識しつつ、引き続き教育改革に邁進し、来年度のAP事業満了を迎えたいと思います。



岐阜高専の国際交流活動

国際交流室長 山本 高久

岐阜高専では2016年にグローバル高専事業拠点校に選出されて以降、グローバル人材の育成に注力しています。今年度はリベラルアーツ教育を範とする英語キャンプ、高専生のための英語教科書の開発、外国人講師による放課後英会話ルーム、専攻科生の海外インターンシップ、海外大学との国際共同セミナー、短期留学生の受入れ、シアトル未来理工系人材育成プログラムなどを実施、開催してきました。特にシアトルのプログラムでは36名の学生が10日間、現地ホームステイをし、ボーイング社などの現役エンジニアとの懇談会、現地高校・大学との交流会、英語によるグループワーク・プレゼンテーション研修を行いました。参加学生より英語のスキルアップのみならず、進路を考える良いきっかけになったとの感想を得ています。このような活動を通じ、本校全体の国際化を推し進めていきます。



研究題目

● Y

学生氏名	主査氏名	特別研究題目
青木 皓平	河野 託也	Yb 原子の磁気光学トラップ用556 nm 光源の開発
青木 崇	片峯 英次	非定常自然対流場の形状決定
青山 宏明	羽瀨 仁恵	グラニジン炭酸塩を用いたグラファイト状窒化炭素薄膜の合成方法の検討とその電子物性
市橋 大樹	山本 高久	ディープラーニングを用いた数値流体力学解析に関する研究
岩下 和弘	青木 哲	建物開口部の遮蔽位置による入射熱量の相違に関する研究
岩田 鉄平	小林 義光	簡易ランドマークを用いた移動ロボットによる屋内巡回システムの開発
臼井 ルーク裕也	今田 太郎	重症児の発達を促す環境刺激装置の開発 —重症心身障がい児の生活環境の在り方に関する研究—
浦崎 幹八郎	角野 晴彦	各種電子産業排水の嫌気性処理への適用
浦崎 新八郎	小林 義光	磁束特性を考慮した磁束と電流フィードバックによる磁気浮上系の制御設計
大野 開世	所 哲郎	コンクリート材料の表面状態の非破壊検査に関する研究
岡地 涼輔	安田 真	複数 q 値を持つ Tsallis エントロピー最大化 FCM 法における各 q 値の推定
小椋 隼平	片峯 英次	静電場の形状最適化
木村 智彦	櫻木 耕史	岐阜県における放課後子ども教室等の子どもの地域における学びの場に関する研究—岐阜県内全自治体へのインタビュー調査と各務原市の現地調査を通して—
國枝 佳祐	青木 哲	レンチキュラー原理を用いた日射遮蔽手法に関する研究
小島 一晃	出口 利憲	動画推薦のための視聴者の表情に基づく嗜好の予測
小島 大輝	北川 秀夫	肝臓領域における肝血管腫検出手法の特徴量の検討
小森 太陽	片峯 英次	3次元熱弾性場の形状最適化
真田 剛揮	北川 秀夫	非造影 X 線 CT 画像を用いた膵臓領域の抽出アルゴリズムの開発
澤井 宏紀	福永 哲也	SoC を用いた物体探索の高速化における FPGA 回路の開発
三川 雅和	宮藤 義孝	環境調和型ミスト冷却技術の開発—渦発生体設置による影響—
種市 慎也	青木 哲	幼稚園・保育所等における冬季の室内環境調整とインフルエンザ対策に関する研究—南東北地方におけるアンケート調査と実測調査—
永田 和仁	宮藤 義孝	環境調和型ミスト冷却技術の開発—ミスト粒径と蒸発距離の影響—
丹羽 雅也	北川 秀夫	誘導制御を目的とした反力提示による障害物回避支援システムの開発
橋口 喬太	和田 清	牧田川における魚道の縦断的連続性と土砂流入対策に関する研究
橋本 拓実	本塚 智	メカノケミカル反応によるセラミックス / 希土類複合粒子の創出
服部 修平	出口 利憲	単語間の概念距離を利用したクラスター分析による次元圧縮
林 昌哉	田島 孝治	書き下し文の生成を目的としたラコト点の電子化に関する研究
廣瀬 有樹	青木 哲	建物鉛直面が受ける日射の遮蔽に関する研究—異なる種類の引き上げ型ロールスクリーンを用いた季節ごとの遮蔽効果の検証—
藤井 耀午	清水 隆宏	岐阜・滋賀・福井県における木造駅舎の研究—近代木造駅舎の建築的特徴—
藤澤 功	田島 孝治	起動間隔の動的変更により長期運用を実現する河川モニタリングシステム
藤田 耕平	柴田 良一	DCDC 法によるガラス亀裂進展に関する Peridynamics シミュレーションの基礎的検討
藤野 秀太	山本 高久	数値流体力学解析を用いた経鼻呼出療法の評価 —慣性衝突パラメータが沈着特性に及ぼす影響—
牧野 聡	小林 義光	屋内環境における磁場変動を用いた移動ロボットの姿勢角の補償
松永 成偉人	北川秀夫	夜間病棟における巡回ロボットののための体温推定
馬淵 俊弥	富田 睦雄	IPMSM の位置センサレス制御のための拡張誘起電圧に基づく同一次元オブザーバの設計法
村瀬 功	福永 哲也	CPU と FPGA の混在回路によるロボット制御
矢島 幹大	菊 雅美	オルソ画像から読み取った七里御浜海岸の構成物の変化に関する研究
安田 和史	羽瀨 仁恵	減圧下でのグラファイト状窒化炭素薄膜の合成とその性質

● M

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
秋吉 宏哉	山本 高久	Deep Learning の数値流体力学解析への応用に関する研究
浅井 瞭	宮藤 義孝	ミスト冷却した溶接部の金属組織に関する基礎的研究
荒木 克也	河野 託也	LED 光センサを利用した力学実験の実験効率の改善
市橋 正啓	石丸 和博	MIG 溶接機を用いた金属溶融積層に関する研究
伊藤 真吾	高橋 憲吾	ガントリークレーンの車輪とレールの摩擦特性実験解析—しゅう動速度が摩擦特性に及ぼす影響—
今井 敦也	高橋 憲吾	ガントリークレーンの車輪とレールの摩擦特性実験解析—輪重が摩擦特性に及ぼす影響—
岩田 泰我	宮藤 義孝	ミスト冷却した溶接部の曲げ特性に関する基礎的研究
岩田 武士	山田 実	3D プリンタを用いたスタンブラー支援アイテムの開発
遠藤 駿	山本 高久	OpenFOAM を用いた流れ場音響解析コードの開発
大野 聖矢	山田 実	レゴマインドストームを活用したリテラシー教育教材の開発
奥田 貴斗	中谷 淳	スペースプレーンの離着陸時の空力特性
加納 光生	河野 託也	ICT 機器を利用した親子で体験できる機械工学体験教材の提案と開発
川口 貴生	加藤 浩三	打抜きパンチ表面テクスチャがバリに及ぼす効果
木村 仁	山本 高久	非ニュートン流体性を考慮した動脈管まわりの血行動態解析
熊田 将志	石丸 和博	点火プラグを用いたストリーマコロナ放電によるオゾン生成とガソリンエンジンへの適用に関する研究
小林 光希	石丸 和博	大気圧マイクロプラズマジェットのスリコーンコーティング技術への応用
西条 優汰	山田 実	モデル予測学習制御を用いた自動注湯機の注湯流量制御
澤村 健介	山田 実	自動注湯機のモデル予測注湯流量制御
高木 勇気	宮藤 義孝	レドックスフロー電池内部における伝熱特性の測定
田中 寛人	石丸 和博	点火プラグを用いた平行平板ストリーマ放電によるオゾン生成とガソリンエンジン性能計測に関する研究
辻 僚真	河野 託也	Wiiremote とタブレット PC を利用した自動運転技術体験教材の開発
勅使川原 翼	中谷 淳	スペースプレーンの離着陸時の空力特性
所 大智	中谷 淳	重力—空力アシスト軌道の特性解析 —大気飛行解析と惑星間軌道設計—
豊場 亮太	片峯 英次	流体構造連成を考慮した構造体の形状最適化
西沢 来輝	本塚 智	扁平鉄粉の集合組織が圧粉体密度に与える効果の解明
野田 翔太郎	山田 実	粒子法シミュレーションに基づく注湯傾動角パターンの最適化
野田 大智	本塚 智	ボールミルで粉砕された鉄粒子と単軸圧縮された純鉄棒材に形成される集合組織の比較研究
日置 隆佑	小栗 久和	アクリル樹脂板の衝撃疲労試験装置の試作
日比野 輝也	宮藤 義孝	レドックスフロー電池内部における熱流動場の可視化
福田 貴広	加藤 浩三	車両ホイールディスクの曲げ・しごき加工における形状精度向上
古田 稔将	中谷 淳	重力—空力アシスト軌道の特性解析 —大気飛行解析と惑星間軌道設計—
堀之内 温人	河野 託也	微細藻類の運動制御法探索用局所光照射システムの開発
松原 和正	本塚 智	再粉砕が誘起するひずみ誘起粒界移動による鉄粒子の結晶粒粗大化
水野 秀都	本塚 智	超音波が誘起するひずみ誘起粒界移動による鉄粒子の結晶粒粗大化
水野 元博	山本高久	数値流体力学解析による鼻洗浄の一考察
三宅 悠暉	片峯英次	流体構造連成を考慮した流れ場の形状最適化
村山 大騎	片峯英次	揚力最大化・揚力規定を目的とした非定常粘性流れ場の形状最適化
安江 友登	加藤浩三	ギヤ付き鍛造部品の歯部打抜きにおけるバリ抑制技術の開発
シャメル	小栗久和	アクリル樹脂板の機械的性質に及ぼすひずみ速度の影響

研究題目

● E

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
池之俣 諒央	羽淵 仁恵	グラファイト状窒化炭素薄膜の光吸収スペクトルおよび光伝導スペクトルの測定
伊藤 亮人	富田 睦雄	渦電流を用いた SPMSM の位置推定
伊藤 駿一郎	飯田 民夫	RF マグネトロンスパッタで作製したペロブスカイト太陽電池用 TiO ₂ 薄膜の物性評価
稲垣 虎多郎	飯田 民夫	酸化物薄膜上におけるペロブスカイト薄膜の作製と界面の評価
岩澤 政利	羽淵 仁恵	グラファイト状窒化炭素薄膜のラマンスペクトルの測定
加藤 聡馬	富田 睦雄	磁束モデルに基づく同一次元オブザーバを用いた IPMSM の位置・速度センサレス制御
加納 諒一	熊崎 裕教	板バネ装着型 FBG 振動センサの検討
川井 久尚	富田 睦雄	低速時における SynRM の位置・速度センサレス制御
杉山 慧	富田 睦雄	拡張誘起電圧に基づく同一次元オブザーバを用いた IPMSM の位置・速度センサレス制御
多田 圭伸	飯田 民夫	ペロブスカイト薄膜作製時におけるスピンコート速度依存性と大気暴露による劣化の分析
勲使川原 大知	熊崎 裕教	フィルタ用 FBG の反射光スペクトル制御
西脇 巧人	白木 英二	パルス捕捉現象による NOLM を用いたファイバレーザの発振特性に関する研究
濱川 隼輔	所 哲郎	複合誘電体の表面からの内部状態評価に関する研究
古川 勢	所 哲郎	DDT 結果に影響を及ぼす事象に関する研究
古野 駿貴	飯田 民夫	理料の興味減少抑制についてものづくり教室からの検討
水谷 篤志	所 哲郎	試料撥水状態の動的観測に関する研究
虫賀 駿	白木 英二	ガルバノスキャン方式を用いた小型安価なレーザ加工機の開発
村重 海月	山田 博文	Web インタフェースによる CNN 可視化ツールの開発
矢島 高志	安田 真	自律走行型除草ロボットの開発
稲葉 善大	田島 孝治	キャリア教育に特化したポートフォリオ作成システムの制作
今井 恭平	出口 利憲	CNN におけるネットワーク構成に関する研究
遠藤 大介	富田 勲	有限領域の光ファイバ最大詰め込み数の研究
岡 葉菜乃	安田 真	確率的探索法の探索点の近傍領域の拡大効果
片山 哲	富田 勲	光波長変換素子の波長広帯域化の研究
神谷 龍治	安田 真	word2vec による評価を導入した強化学習による文書自動要約
神谷 涼斗	田島 孝治	双方向変換が可能な音楽視覚化手法の検討
小寺 智仁	出口 利憲	多層化カオスニューラルネットワークによる逐次学習の基礎的研究
小森 雄斗	安田 真	LSH を用いたマルウェア垂種の検知方法の研究
坂井 俊介	田島 孝治	土壌水分を測定する IoT デバイスの試作
清水 柚伎	羽淵 仁恵	地域でのものづくり活動とその効果
杉山 綾乃	安田 真	飲食店における座席割り当ての artisoc によるシミュレーション
田中 慶	安田 真	自転車利用者のための衝突危険通知システムの開発
大道寺 里奈	所 哲郎	試料表面粗さの撥水性観測への影響に関する研究
長尾 彪真	出口 利憲	文書の類似度計算における次元削減手法に関する研究
長澤 紘汰	出口 利憲	DQN を利用したリバーシ AI に関する研究
丹羽 拓実	田島 孝治	学生名の正確な変換を特徴とする校内放送向け音声文字化システム
馬場 恵助	山田 博文	画像特徴量を用いた One Class SVM の分類性能評価
山田 啓允	安田 真	台風の進路予測における過去の進路情報の活用と進路の確率場の可視化
山中 律輝	富田 勲	半導体細線の量子電子伝導の研究
渡邊 功佑	白木 英二	パルス捕捉現象による NOLM を用いたモード同期レーザの高強度化に関する研究
和田 晃聖	安田 真	画像処理による除草ロボットのルート決定
和田 透弥	山田 博文	声質変換における Generative Adversarial Nets の学習終了条件に関する研究

● D

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
有坂 承	小林 義光	小型電磁石を用いた磁気浮上搬送系のホール素子配置の検討
伊藤 和馬	森口 博文	光ファイバ伝送系のパラメータ評価に関する非線形シュレディンガー方程式の数値解析プログラム作成
今井 基晴	藤田 一彦	半導体デバイスの C-V 測定システム構築と拡散電位および不純物濃度の推定
岩根 東生	北川 輝彦	造影 X 線 CT 画像を用いた脾臓領域のアトラスの高精度化と自動抽出手法の改善
牛丸 拓哉	福永 哲也	ICA のための複数音源・複数マイクシミュレータの開発
大久保 衣理	森口 博文	強磁場中でのシリコン融液対流の制御に関する 2 次元流体方程式による解析
奥田 一星	福永 哲也	カメラ情報を用いたロボット移動領域の算出
奥田 有紀也	栗山 嘉文	円柱翼型風車を使用した縦洞に関する調査と AICVAWT の動作原理の考察
北川 雅千弥	黒山 喬允	単一気泡振動の粘度依存性解析に関する研究
木戸 俊佑	北川 輝彦	非造影 X 線 CT 画像における横隔膜の近似面の作成及び評価
瀬藤 真太郎	遠藤 登	超音波センサを用いた自動追従制御
小嶋 柁道	北川 秀夫	全方位カメラとレーザレンジファインダを用いた周辺環境のマッピング
佐藤 陵一	藤田 一彦	2 つのカメラモジュールと DE0 ボードを用いた映像信号処理回路の設計・製作
澤井 伸次	小林 義光	ジナル機構を用いたカメラ用制振装置の動特性解析
杉野 彰大	藤田 一彦	ブラシレス DC モータのベクトル制御のための制御系の構築
鈴木 貴心	栗山 嘉文	風車周辺に発生する気流を可視化するための移動式小型風洞実験装置の設計および製作
高橋 祐輔	遠藤 登	Kinect v2 を用いた指文字認識技術の研究
戸市 裕一郎	藤田 一彦	強誘電体の P-E ヒステリシスループ自動測定システムの構築
長崎 力	福永 哲也	Excel を用いた CPU シミュレータの開発
西垣 尚太郎	北川 秀夫	カメラを用いた道路検出の研究
林 泰地	小木曾 里樹	録音信号の相互相関関数に基づく見通し外音源の評価手法に関する研究
日置 智則	小林 義光	単純適応制御を用いた車輪型移動ロボットの走行制御
広井 健太郎	小木曾 里樹	乳棒突起部における骨導振動子の電気インピーダンスと接触圧力に関する研究
福井 悠斗	北川 輝彦	U-net モデルによる顕微鏡画像からの細胞核領域抽出手法の開発
古田 侑也	森口 博文	自動機械振動系の同期現象の制御に関するメトロノーム系を例とした数値計算
星野 可行	黒山 喬允	シュリーレン法の波動光学的解析に関する研究
本田 優希	栗山 嘉文	Raspberry Pi を利用した制御工学用教材の開発と液体搬送制御への適用
前島 涼人	福永 哲也	音声認識マイコン EasyVR を使用したリモコンとロボットの設計・製作
正村 凌雅	黒山 喬允	共焦点光学系とレーザ散乱を用いる気泡振動計測法に関する研究
松浦 光希	北川 輝彦	非造影 3 次元 X 線 CT 画像を用いた中間静脈(MHV)の芯線の自動抽出手法の開発
松尾 亘陽	小林 義光	移動ロボットによる屋内巡回のための簡易ランドマークの検討
水野 優希	北川 輝彦	非造影 3 次元 X 線 CT 画像における強調処理による肝内血管の抽出手法の検討
南谷 果歩	小林 義光	低重心型二輪移動ロボットのツアーガイドに対する走行制御の検討
宮部 友汰	北川 秀夫	回診支援ロボットのための人物追従システムの研究
三輪 周平	北川 秀夫	人の動きのロボットによる再現の研究
森 大河	栗山 嘉文	積層モータの積層数とその回転数の調査
山田 智博	栗山 嘉文	直管パイプを用いた、砂による架橋現象の発生原因の調査
山本 岳志	遠藤 登	フォーメーション制御のためのロボット位置計測
横山 史高	黒山 喬允	圧電フィルムを用いる音響キャピテーションノイズの計測に関する研究
エルヘメ	森口 博文	自動機械振動系の同期現象の制御に関するメトロノーム系を例とした数値計算

● C

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
伊藤 広大	鈴木 正人	d4 PDF の将来実験結果を用いた降雨の時間分布特性の将来予測
岩田 和樹	渡邊 尚彦	内構材が貯水槽バルジング応答に及ぼす影響評価
岩田 健吾	鈴木 正人	d4 PDF の過去実験における降雨の時間分布特性と気温の経年変化が地域に及ぼす影響
岩田 治樹	廣瀬 康之	WEB アンケートを用いた岐阜西部地区の地方鉄道が地域に及ぼす影響
岩月 雄登	菊 雅美	礫浜に設置された消波ブロック周辺の波浪場に関する数値シミュレーション
上田 樹	廣瀬 康之	アンケートによる都市公園の便益評価に関する研究
上野 諒平	鈴木 正人	d4 PDF の過去実験における空間データの統計分析
大野 可南子	吉村 優治	間伐による森林機能改善評価及び季節による光合成量の変化に関する研究
大平 晃基	角野 晴彦	TMAH 排水の嫌気性処理の前段階におけるメタノール排水供給の効果
岡田 尚也	川端 光昭	道の駅の類型化と地域活性化の拠点としての役割
小塩 将寛	和田 清	長良川の輪中地帯における河川構造物の機能評価に関する研究
加藤 絢子	岩瀬 裕之	等比共面電極による撥水層厚さの推定の実用化
河瀬 博斗	川端 光昭	地域鉄道の実態と長期的MM教育の可能性に関する基礎的研究
京田 達郎	吉村 優治	表層地盤改良の固化材混合精度の検討
汲田 朱里	川端 光昭	無信号二段階式横断歩道における車両挙動と安全性の検証
堺 公香	吉村 優治	凍上現象のメカニズムの基礎的研究
澤田 健斗	水野 和憲	剛な基礎構造物のモデル化と支持力解析への適用
鈴木 貴大	水野 和憲	地盤の飽和・不飽和浸透流に関する基礎的研究
土井 創史	水野 剛規	少数主桁橋の破断時部材の動的特性に関する基礎的検討
中畑 列賀	水野 和憲	粘着力を有する地盤および互層地盤における主働土圧合力の算定
長谷川 陣	和田 清	河川堤防越流による洗掘防止用ブロックマットに関する研究
峰谷 敏志	水野 剛規	高力ボルトの簡易的な軸力計測手法に関する検討
馬場 祐花	角野 晴彦	TMAH 排水の嫌気性処理のスタートアップ特性
樋口 卓磨	鈴木 正人	IDF 関係を用いた d4 PDF の過去実験における夏季降雨の時間分布特性の再現性の確認
松井 稜	渡邊 尚彦	制振材配置貯水槽のバルジングの応答推定
丸山 宗吾	和田 清	山地河川の流送土砂による魚道閉塞と魚道の機能改善に関する研究
水野 有華	川端 光昭	タクシー事業者を活用した地域公共交通網形成の実態
三宅 咲良	角野 晴彦	電子産業排水に含まれる各種有機性化学物質の生分解性評価
宮下 侑莉華	菊 雅美	ディープラーニングによる海岸画像と波浪条件の関連性に関する研究
三輪 憲太	水野 剛規	水平 2 方向地震動下における鋼製橋脚アンカー部の耐荷機構
武藤 丈瑠	岩瀬 裕之	コンクリート充填状態の判定方法に関する研究
森 勇人	菊 雅美	UAV-SfM/MVS 測量の最適解析手法の検討と現地海岸の地形変化特性の解明
諸橋 果歩	和田 清	2018年7月豪雨による中小河川の洪水氾濫と超過洪水の避難体制に関する研究
山本 祥太郎	菊 雅美	有風時における越波計算の再現性向上に向けたパラメータの検討
脇田 裕里	水野 和憲	LMS を利用した土の力学的性質を求める試験に関する教材開発
渡邊 歩	水野 和憲	補強材の設置条件による斜面への影響と補強メカニズムの力学的考察
渡邊 翔太	川端 光昭	自転車走行空間の整備水準が自転車利用者の選好に及ぼす影響
チャー	和田 清	A Study on Longitudinal Flow Continuity of Fishway in Nagara River

● A

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
安達 晃佑	櫻木 耕史	中山道大湫宿の生活環境と交通動線に関する研究
飯田 匠海	石川 あゆみ	重症心身障がい児施設における音環境および光環境の実態把握
井上 勝貴	今田 太郎	重症心身障がい児の刺激環境の認知に関する研究
岩井 蛭	櫻木 耕史	大湫宿の将来の方向性に関する研究

学生氏名	指導教員	卒業研究題目
大里 柚	青木 哲	乳幼児施設における冬季室内環境の調整とインフルエンザ対策—北東北地方における幼稚園・保育所・こども園を対象としたアンケート調査—
大島 七海	石川 あゆみ	岐阜工業高等専門学校における演奏環境の評価とその改善方法について—聴衆による演奏音の評価—
大塚 史織	犬飼 利嗣	ジオポリマーモルタルに関する基礎的研究—練混ぜ方法と模擬乾燥スラッシュ粉の混入率が圧縮強さに及ぼす影響—
大庭 梨子	清水 隆宏	旧中山道大湫宿・旧森川義有邸の研究—敷地内に残る付属建物の研究—
大平 航己	鶴田 佳子	デンマーク計画法にみる低密度地域における土地利用制度に関する研究
岡田 僚太郎	櫻木 耕史	歩行時の注視と注視フィルタの有効性に関する研究
小川 修汰	石川 あゆみ	建築空間において在室者が受ける視聴覚印象に関する研究—パノラマ画像で表現された VR 空間に対する主観評価実験—
桂川 太一	櫻木 耕史	中山道大湫宿における景観とまちづくりの意識に関する研究—アンケート調査の実施による住民意向の把握—
加茂 真入	青木 哲	レンチキュラー原理を用いた日射遮蔽手法に関する基礎的研究—スクリーン線数および太陽位置の変化による透過日射量への影響—
河口 朋弥	今田 太郎	場面をつくり出す環境刺激要素の仕組みに関する研究
木村 彩乃	青木 哲	幼稚園・保育所・こども園における冬季室内環境の実態把握—南東北地方における実測調査—
河村 優明	石川 あゆみ	岐阜工業高等専門学校における演奏環境の評価とその改善方法について—演奏者によるステージ音場の評価に関する研究—
小林 真依	青木 哲	乳幼児施設における冬季室内環境の調整とインフルエンザ対策—幼稚園教諭・保育士を対象とした Web アンケート調査—
小林 祐也	柴田 良一	オープンソース CAE による流体構造連成解析に関する基礎的研究—preCICE による 2 次元モデルの解析と検討—
後藤 愛乃	今田 太郎	Pad の構成要素としてのモバイルアーキテクチャーの開発
杉山 勇斗	櫻木 耕史	歩行時の視線を考慮した街並みの景観規制のあり方に関する研究—中山道大湫宿の景観とまちづくりへの応用—
高尾 友貴	上原 義己	セメントペーストのフロー特性に関する実験的研究—水セメント比及び高性能 AE 減水剤の添加量がペーストフローに与える影響について—
坪井 もも	櫻木 耕史	岐阜県内の放課後子ども教室の実施状況と施設のあり方に関する研究
寺田 美希	鶴田 佳子	広域都市計画区域縁辺市町市街化調整区域における居住および生活拠点に関する研究
戸崎 尚平	青木 哲	建物の鉛直面が受ける日射の遮蔽に関する研究—特性の異なるロールスクリーンでの夏季における遮蔽効果の相違—
長屋 和樹	清水 隆宏	愛知県における木造校舎に関する基礎的研究—現存する廃校となった三河地方の小学校校舎を中心として—
堀 了也	犬飼 利嗣	コンクリートのフリーディングが硬化後表層の品質に及ぼす影響—調査を要因としたモルタルのフリーディングが硬化後表層の各種透水指標に及ぼす影響—
前田 かれん	清水 隆宏	越美南線・越美北線の駅舎に関する研究
松尾 泰我	柴田 良一	高齢社会における居住空間の安全性向上に関する基礎的研究—数値解析を用いた骨盤骨折時における固定方法の比較—
満仲 ほの花	今田 太郎	Pad の展開モデルに基づいた地域空間のデザイン
水谷 嘉宏	上原 義己	セメントペーストの流動シミュレーションに関する研究—MPS 法を用いたペーストフロー解析の手法とその有効性について—
武藤 美里	犬飼 利嗣	コンクリートのフリーディングが硬化後表層の品質に及ぼす影響—調査を要因としたモルタルのフリーディングが硬化後表層のドリル削孔速度に及ぼす影響—
安江 歩夢	犬飼 利嗣	フレッシュコンクリートの透水係数が硬化後表層の品質に及ぼす影響—調査を要因としたフレッシュモルタルの透水係数が硬化後表層のドリル削孔速度に及ぼす影響—
柳田 大地	清水 隆宏	旧中山道大湫宿・旧小木曾家住宅の研究
山口 拳生	鶴田 佳子	高専教育における Community Based Learning 導入による効果と課題—5 A 参加のデザイン・2017 デザコン 創造部門への試行導入—
山崎 佳奈	清水 隆宏	旧中山道細久手宿の町並みに関する研究—3D スキャンによる点群データを利用した町並み形状把握の基礎的研究—
山本 大貴	犬飼 利嗣	フレッシュコンクリートの透水係数が硬化後表層の品質に及ぼす影響—調査を要因としたフレッシュモルタルの透水係数が硬化後表層の各種透水指標に及ぼす影響—
ソバアック	今田 太郎	ポトング小学校設計計画

卒業・修了証書授与式

■第52回卒業証書・第23回専攻科修了証書授与式挙行

第52回卒業証書・第23回専攻科修了証書授与式が3月19日（火）午前10時から本校第一体育館で、近隣中学校の校長先生・本校教育後援会会長・同窓会（若船会）会長・名誉教授のご臨席及び卒業生・修了生の保護者が出席して挙行されました。

授与式は、校長の式辞に始まり、若船会会長の祝辞に続いて、卒業生・修了生を代表して環境都市工学科の水野有華さんから答辞がありました。

卒業証書を授与された学生は、機械工学科39名、電気情報工学科42名、電子制御工学科40名、環境都市工学科38名、建築学科37名、合計196名、修了証書を授与された専攻科生は、先端融合開発専攻38名でした。

平成30年度岐阜工業高等専門学校学生表彰受賞者及び学会等表彰受賞者

区分	学科名	氏名	区分	学科名	氏名	区分	学科名	氏名	
学業成績優秀賞	機械工学科	豊場 亮太	課外活動優秀者賞	機械工学科	三宅 悠暉	学生模範賞	電気情報工学科	山田 啓允	
	〃	野田 大智		電気情報工学科	加納 諒一		環境都市工学科	シャーン	
	電気情報工学科	丹羽 拓実		〃	馬場 恵助		建築学科	大平 航己	
	電子制御工学科	澤井 伸次		〃	丹羽 拓実		先端融合開発専攻	浦崎幹八郎	
	環境都市工学科	岡田 尚也		〃	村重 海月		〃	浦崎新八郎	
〃	岩井 瑩	〃		山田 啓允	〃		種市 慎也		
精勤賞	機械工学科	西沢 来輝		電子制御工学科	木戸 俊佑		〃	藤澤 功	
	電気情報工学科	神谷 龍治		〃	杉野 彰大		〃	馬淵 俊弥	
	〃	小森 雄斗		〃	日置 智則		(社)日本機械学会 晶山賞	機械工学科	豊場 亮太
	電子制御工学科	高橋 祐輔		〃	水野 優希		電気学会 東海支部長賞	電気情報工学科	神谷 龍治
	〃	前島 涼人	環境都市工学科	加藤 絢子	計測自動制御学会 中部支部支部賞学業優秀賞	電子制御工学科	有坂 承		
	環境都市工学科	岩月 雄登	〃	汲田 朱里	全国高専土木工学会 近藤賞	環境都市工学科	岩月 雄登		
	〃	澤田 健斗	〃	塚 公香	土木学会中部支部 支部長賞	〃	諸橋 果歩		
	〃	武藤 文瑠	〃	蜂谷 敏志	岐阜県建築士会賞	建築学科	安達 晃佑		
	〃	森 勇人	〃	馬場 祐花					
	〃	諸橋 果歩	〃	宮下侑莉華					
優良学生会指導者賞	建築学科	安達 晃佑	〃	諸橋 果歩					
	〃	小川 修汰	〃	脇田 裕里					
	〃	杉山 勇斗	建築学科	岩井 瑩					
	〃	坪井 もも	〃	大里 柚					
	電子制御工学科	木戸 俊佑	〃	大庭 梨子					
	〃	山田 智博	〃	桂川 太一					
	環境都市工学科	中畑 列賀	〃	高尾 友貴					
	〃	柳田 大地	〃	寺田 美希					
	優良寮生会指導者賞	環境都市工学科	中畑 列賀	〃	戸崎 洸平				
	〃	機械工学科	西条 優汰	〃	前田かれん				
課外活動優秀者賞	〃	高木 勇氣	〃	松尾 泰我					
	〃	辻 僚真	〃	安江 歩夢					
	〃	日比野 輝也							

平成30年度 若船奨学基金表彰者一覧

区分	学科名	氏名	表彰理由
特別優秀学生賞	機械工学科	三宅 悠暉	卒業研究及びその発表、または所属学科内の活動において、特に優秀と認められたため。
	電気情報工学科	小森 雄斗	
	電子制御工学科	北川 雅千弥	
	環境都市工学科	土井 創史	
	建築学科	加茂 真入	

区分	所属部	学科(専攻)名	氏名	表彰理由	区分	所属部	学科(専攻)名	氏名	表彰理由			
課外活動体育系(団体の部)	柔道部(男子)	—	—	地区高専体育大会 男子団体 優勝(26年連続)	課外活動技術系(個人の部)	—	環境都市工学科	宮下 侑莉華	全国高専デザインコンペティション 創造デザイン部門 審査員特別賞			
				全国高専体育大会 男子団体 優勝					加藤 絢子	全国高専デザインコンペティション 創造デザイン部門 審査員特別賞		
				岐阜県学生柔道優勝大会 男子団体 優勝(8年連続)					汲田 朱里	全国高専デザインコンペティション 創造デザイン部門 審査員特別賞		
	—	馬場 祐花	全国高専デザインコンペティション 創造デザイン部門 審査員特別賞									
	バドミントン部(男子)	—	—	地区高専体育大会 男子団体 優勝				—	—	環境都市工学科・コンピュータ倶楽部	丹羽 拓実	「学生による地域課題解決提案事業」成果報告会 第2会場2位
	バドミントン部(女子)	—	—	地区高専体育大会 女子団体 優勝				—	—	電気情報工学科	山田 啓允	「学生による地域課題解決提案事業」成果報告会 第1会場2位
	テニス部(男子)	—	—	地区高専体育大会 男子団体 優勝				—	—	環境都市工学科	岩田 治樹	「学生による地域課題解決提案事業」成果報告会 第1会場2位
ソフトテニス部	—	—	地区高専体育大会 男子団体 優勝	—	—	—	上田 樹	「学生による地域課題解決提案事業」成果報告会 第1会場2位				
ラグビーフットボール部	—	—	全国高専体育大会 男子団体 第3位	—	—	—	宮下 侑莉華	特許登録(本科では初の特許取得)				
陸上競技部(女子)	—	—	地区高専体育大会 優勝	—	—	—	脇田 裕里	特許登録(本科では初の特許取得)				
課外活動体育系(個人の部)	柔道部	電気情報工学科	加納 諒一	地区高専体育大会 男子個人73kg級 優勝	範となる行為	—	—	—	ボランティア活動(清掃活動)			
				全国高専体育大会 男子個人73kg級 優勝								
	水泳部	建築学科	大里 柚	本田 優希						地区高専体育大会 女子シングルス 優勝		
										地区高専体育大会 男子200m背泳ぎ 優勝		
										地区高専体育大会 男子100m平泳ぎ 優勝		
		電子制御工学科	水野 優希	地区高専体育大会 男子200m背泳ぎ 優勝								
				地区高専体育大会 男子400mメドレーリレー 優勝								
				地区高専体育大会 女子50m自由形 優勝								
	建築学科	前田 かれん	地区高専体育大会 女子100m自由形 優勝									
	陸上競技部	環境都市工学科	—	—						全国高専体育大会 女子走幅跳 優勝		
地区高専体育大会 男子三段跳 優勝												
建築学科		—	—	地区高専体育大会 女子3000m 優勝								
				地区高専体育大会 男子円盤投 優勝								
				地区高専体育大会 男子やり投 優勝								
—	—	—	全国高専体育大会 男子やり投 優勝									

退職教職員あいさつ



一般科目（保健体育） 久世 早苗

昭和53年3月に大学を卒業後、高等学校の講師を皮切りに41年間の職業人生を終わる事となりました。その間、色々な出会いや切っ掛けがあり、こうして岐阜高専で教員生活を終える事が出来た事に感謝するとともに、出会った全ての方々に感謝したいと思います。人との出会いはそのほとんどが偶然ですが、色々な場面で色々な方に色々な形で助けて頂きました。本当にありがとうございました。皆さんも、これから沢山の出会いを経験するわけですが、その一つ一つに意味があることを忘れずに、そして大切にしてください。また、こうして定年を迎える事が出来たのも、自分を含め家族が皆健康であったからだだと痛感しています。皆さんも体を大事に活躍して下さい。



機械工学科 本塚 智

岐阜高専に着任して9年が過ぎました。着任前は企業で設備設計をしていたので、授業の経験など全く無く、初授業の前日には、放課後の3Mの教室で板書の練習をしていました。研究テーマも思い浮かばず、試行錯誤の毎日でした。そんな私がなんとかやってこられたのは、岐阜高専の教職員の皆様のおかげです。特に機械工学科、研究協力・契約・財務係の皆様にはご負担をおかけしました。深く御礼申し上げます。学生の皆さんにもお世話になりました。学ばされる事も多い9年間でした。最後にお伝えしたいのは、相手の考えを理解する力、自分の考えを伝える力を磨いてほしいということです。他人の考えを理解できれば自分の世界が広がります。自分の考えを伝えることができれば他人を動かすことができます。その結果、一人ではできない大きな事を成し遂げることができます。ぜひこの二つの力を磨いて、立派なエンジニアになってください。



総務課長 蒲 美登子

昭和57年2月に、三重大学から転勤し、以来37年間も岐阜高専にお世話になりました。当時は、電卓はなくそろばんで計算し、コピー機はなく手書きかカーボン紙を入れて複写していました。会議資料を印刷すれば、インクで手も顔も真っ黒に。やがて、電卓で計算し、ワープロで公文書を作成するようになりました。「1字挿入」がいつも簡単にでき、感激したことを今も覚えています。今は、パソコンという万能で便利な物が普及し、本当に事務機器の進歩はめざましく、使いこなすことは難しくなりました。これからどんな夢のような機器ができて、どんな風になっていくのか。たのしみです。岐阜高専で長くお仕事させていただいて本当に楽しかったです。ありがとうございました。岐阜工業高等専門学校のさらなる発展をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



一般科目（自然） 岡田 章三

名古屋生まれで名古屋育ちの私が岐阜本巣の地に来ることになりましたのも何か縁だったのだと思います。私は数学を教えてきましたが、数学の中でも整数論という分野を専門としています。この地に生まれ「類体論」を完成させたことで有名な高木貞治博士は整数論の大先輩なのです。ここ十数年は高木博士の顕彰事業でもある「算数・数学甲子園」にも関わらせてもらいました。その中で数学甲子園を受験した子供達が「問題を解くのが楽しかった」、「解けなかったけど面白かった」という感想をよく書いてくれます。点数を取れた子だけでなく、あまり出来なかった子も「面白かった」と言ってくれるのです。

高木博士がドイツ留学中に、ある問題について質問に行ったらところフロベニウス先生は「それは面白い。自分でよく考えなさい。」と言われたといいます。ネットにある情報を鵜呑みにすることなく、自分で考えて数学の、そして学問の面白さを体験できる学生であられる岐阜高専になることを祈っています。

最後に多くの教職員の皆さんにご迷惑をおかけし、また助けていただきながら、何とかやってこられました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



建築学科 上原 義己

私は岐阜高専が社会人として初めての職場でした。着任当初は右も左もわからず、周りの方々にご迷惑ばかりおかけしましたが、皆様に支えられて何とかやってこれた2年間でした。短い期間ではありましたが、建築構造や情報処理などを教える機会をいただけたことで、私自身も非常に多くのことを学ぶことができました。また、専門分野の研究に取り組む中で、他分野の先生とのやり取りから新たな視点を発見することもあり、このような環境で研究を行えることがとても新鮮な体験でした。今後は故郷である沖縄に戻る予定ですが、本校で培った経験を財産として、より一層励んでいきたいと思っております。お世話になった教職員の皆様、学生の皆様のご健康、ご活躍を心より祈っております。本当にありがとうございました。

学生課課長補佐 渡邊 博子

昭和58年、縁あって、大学より本校に迎えていただきました。その際、本コーナーで担当の上司より新しい風を吹かせる期待を込めた紹介をいただいたことを昨日のこのように思い出します。

そして、今、退職するにあたり30数年間を振り返りますと、私は、学生系での配属が長く、学生の皆さんから目指す進路への挑戦あるいは課外活動での活躍などの心地良い追い風を日々受けて、学生支援に携わることができたことは学校職員冥利に尽きるところです。ありがとうございました。引続き、岐阜高専の教育体制・教育活動が、保護者の皆さまと教職員の連携により、主役である学生の皆さんの志に応えていけるよう整備・展開されていくことを心より祈念しています。

高専祭（専門展）

信頼できる仲間

機械工学科 第4学年 大橋 英二

私は、1人の人間の能力や活動の範囲には限界があると思います。しかし、多数の人間が一致団結することにより、その限界はなくなると思います。

私たち機械工学科には45人の学生が在籍しています。今回の専門展では学生全員が一致団結できるよう、11人のリーダーをたて、細かく役割分担することにより組織的に活動しました。さらに、各チームに4人程度の学生を配属することにより、一人一人の仕事が明確化され、互いのアイデアを尊重することができたため、一般賞を獲得することができました。

このような結果は、これまで4年間共に学生生活を歩んできた信頼できる仲間たちとの集大成であり、互いを尊重する大切さを改めて感じました。私たち機械工学科は、今回の専門展で得たものを活かし、限界のないエンジニアになりたいです。

最後になりましたが、技術指導をしてくださった先生方に、深く感謝申し上げます。



2015Eの皆さんのおかげでした

電気情報工学科 第4学年 中本 有紀

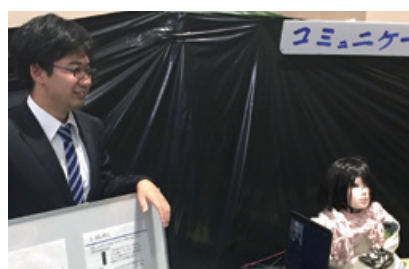
街中、企業の看板が景色を彩っています。消費主義は供給過剰ゆえの多量廃棄、そして物を買うことが幸せだという価値観を作りました。そして資本主義は人々の貧富の差を今も引き延ばしています。高専は専門を学ぶ学校で全員が大卒並みの知識を持っています。だからこそ能動的に考え、行動できる人になるべきだと思います。さて、高専祭ではチームでものづくりをすること、一人一人の良さを発揮することの難しさを実感しました。しかし当日にはご来店の方々に良いプレゼンを提供することができたので良かったです。最後に、専門展で資料、機材、材料の提供・指導をして頂いた企業の方、先生方に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました！



身を持って体感した専門展

電子制御工学科 第4学年 西脇 想起

5月に発表の専門展テーマ「未来の生活」では、合理性ある計画、順調な進捗とゆとりある活動などありませんでした。ゆとりがあるのは、入学当初42人で詰まっていたはずが、4年で31人となり、後方に大きなスペースの生じた教室だけです。少数精鋭とは程遠く、むしろ協調性はなく、流石に展示すべきものを話合いましたが、「自分たちのやりたいことをやる!!」に妥協。「話しかけに反応するロボット（動く生首）」、「AR技術の体験（難しい？ゲーム）」、「トロッコ問題紹介（人を軽く倫理）」の3つを展示しました。表彰ならずも個性の詰まった高専らしい展示だったのでは？クラスを纏めることの大変さなど、身を持って理解できました。やり切った事実が人生に何かプラスに働くことを願うばかりです。



専門展を終えて

環境都市工学科 第4学年 大平 尚輝

私たちの学科では「地震から命を守る！」というテーマで発表を行いました。10月に入ってから本格的に準備を始めて、ほとんど毎日、皆が学校の実験室に集まって準備を行いました。最初は楽しく準備を行っていましたが、高専祭当日が近づくにつれて壁に突き当たることが多くなり、決して楽な道のりではありませんでした。しかし、皆の頑張りや先生のサポートのおかげで、当日には良いものを完成させることができました。「総合1位」、「技術賞」、「プレゼンテーション賞」を受賞することができました。

私自身、大変なことも多く何度も逃げたいと思うことがありましたが、終わった今では達成感が大きく、とてもやりがいを感じています。リーダーになることで多くのことを学び、経験することができて、とても良い思い出になりました。



やり切った専門展

建築学科 第4学年 高木 瑞花

今年度の「未来の生活」という専門展のテーマは、私たち建築学科にとって難しいと感じるものがありました。そのため、なかなか方向性が定まらずにいましたが、話し合いで自分たちがこの先どういう生活がしたいかを発表することにしました。作業中は、意見の違いで対立することや、作業人数が集まらないといったことがありましたが、徐々に完成に向かってクラスで一丸となれたと思います。作業完了はギリギリでしたが、やり切れたので良かったです。専門展を通して、「人と建築の関係性」をたくさんの人に伝えることができたと思います。今回学んだことをこれからの生活に活かし、さらに、これからも建築の勉強に励みたいと思います。



研修旅行 4年

研修旅行を終えて

機械工学科 第4学年 山口 智也

僕たち機械工学科は、本巣市から泉大津港を経てフェリーに乗り、九州に入りハウステンボスや大宰府天満宮などたくさんの観光名所を散策してきました。あまりにも壮大な旅で紙面にはとても書ききれません。そのため、印象に残った部分だけ書いていきます。

旅行の道中では村田製作所八日市工場、安川電機本社、九州シンクロトロン光研究センターを見学させていただきました。社員の方々のものづくりに対する熱意を感じることができました。

旅行先で様々なところを回り、一人一人がそれぞれ様々なことを感じたと思います。しかし、一つだけ言えるのは誰にとっても心に残る旅だったということです。これは、この旅行に携わった方々のおかげです。協力してくださった方々に感謝します。



九州縦断 4年研修旅行

電子制御工学科 第4学年学級担任 森口 博文

2年連続3回目の研修旅行の引率です。昨年の工場見学の印象が良く、積極的計画が出ないところ、引続き福岡の安川電機みらい館(ロボット村)と、新たに鹿児島島のJAXA内之浦宇宙空間観測所に4月中に申込みました。この事と積立金廃止の初年で九州縦断を入れ、名古屋駅集合、九州新幹線等、貸切バス、宇宙科学資料館、桜島有村展望所、桜島フェリー(15分)、島津別邸仙巖園(大河ドラマロケ地)、西郷どん館、熊本城(城彩苑・加藤神社)、熊本駅解散等となりました。打上げ準備で11月に観測所全域立入禁止の連絡があり大変残念でした。初日より全員集合時間をほぼ守り、桜島等で楽しそうだったのが好印象でした。(なお1.18イプシロンロケット4号打上げ成功!)

最後にこの場を借りて、代金振込2回の変更に係わらず、全員2回とも期限までに手続きいただき、本当に感謝いたします。



4年研修旅行

僕たち建築学科は九州に行きました。初日は新幹線で博多駅に着くと、まず吉野ヶ里公園に行きました。その後、ハウステンボスに行ってアトラクションを楽しみました。2日目は軍艦島クルーズの後、隈研吾さんが設計した長崎県美術館を訪れ、さらにグラバー園と大浦天主堂にも行きました。3日目は現在、熊本地震による被害から修復工事中の熊本城を見学し、その後は熊本市内の散策をしました。4日目の最終日は太宰府天満宮に行き、僕たちの研修旅行は終わりました。

いろいろな建物を見た旅行でしたが、僕が一番心に残ったのは軍艦島です。最近の台風の影響により、上陸して見学することは出来ず、周りを船で見学することしかできませんでした。しかし、事前に授業で予習をしていたため、建築学科の学生ならではの観点で日本最古のRC造高層アパート建築を見学できたと思います。

このように、とても充実した研修旅行となりました。

4年研修旅行

電気情報工学科 第4学年 青木 颯

僕たち電気情報工学科は、1日目はカワサキワールドを見学し、「BE KOBE」等を見た後、九州までフェリーで移動しました。2日目は、九州電力株式会社小倉発電所を見学し地獄めぐりをしました。3日目は、長崎原爆資料館の見学をしました。

たくさんいろんなところを見学し、散策しましたが1番の思い出はみんなと過ごしたホテルの思い出と財布と携帯をいろんなところに忘れる人がいたというのが思い出です。4年間一緒のクラスの子達だけど、研修旅行で友達の新たな一面などが見え、仲が深まった楽しい研修旅行になってよかったです。携帯や財布を無くした子も、見つかったらいいのでよかったです。

なお、仲が深まった研修旅行ですが、自由奔放の人が多いクラスなのでクラス全員で撮った1枚しかない写真がこれです。



充実した研修旅行

環境都市工学科 第4学年 高鳥 理彩

3年半ほど一緒に過ごしてきた仲間たちと送る3泊4日の研修旅行は「最高」以外の言葉では表現できないほど充実しており、忘れられない時間となりました。9時から16時10分までという限られた時間の中でしか関わることがなかったクラスメイトの新しい一面や素顔を発見することができ、どの瞬間もとても新鮮でした。

私たち環境都市工学科は「橋」をメインに旅行しました。構造力学で何となく触れてきただけで熱狂的に橋を愛していたわけではありません。しかし、大きくて立派でドラマのある数々の橋は私たちの想像をはるかに超えていて、素晴らしい感動を与えてくれました。

そしてその橋は多くの人やモノを流通させ、なくてはならない大きな役割を果たしていました。あって当たり前土木構造物ですが人々にとっていかに重要であるかを感じるとともに、将来この分野で仕事がしたいという意識を持つことができました。実りのある旅行でした。



建築学科 第4学年 石田 健



研修旅行 3年

未来を担うロボットの製造現場より

機械工学科 第3学年 諏訪 太陽

我々3Mは、富士山の麓にあるファナックに到着しました。敷地は広く、全てが黄色であることは知っていましたが、実際に見学するとスケールが段違いで、工場、社宅、トレーニングセンタ、体育館、ローマ風呂まであり、1つの町となっていました。ファナックはNCとサーボモーターをコア技術として、ロボットを作っている会社です。日夜関係ない工場稼働の自動化を追求しており、日本の将来を担う代表的な会社の1つといえます。ロボットがロボットを組み立てる光景や超精密・超高速で動くロボットのアームには本当に圧倒されました。岐阜高専OBの方が丁寧に質疑応答をしてくださり、生涯保守を続けるというファナックの精神が伝わってきました。さらに、海外の様々な場所で働いてきた体験も聞くことが出来ました。今回の研修は将来のビジョン、働き方を考えさせられる素晴らしい体験となり、改めて日本の技術力は凄いと認識する1日でした。



研修旅行記

電子制御工学科 第3学年 大倉 秀斗

私達は、村田機械株式会社に見学へ行きました。村田機械株式会社は繊維機械、工作機械などの産業機械やデジタル複合機等の情報機器の他、自動倉庫や無人搬送システムを中核としたFAシステムやロジスティクスシステム、半導体工場向けのクリーンルーム対応FAシステムなど様々な分野で活躍している会社で、高専の卒業生も多く就職しているということです。

私は技術者になりたいと将来について漠然とした考えでいました。今回の見学を通して、働く環境や雰囲気、社員の笑顔など、実際のところを知ることが出来ました。職場の雰囲気は、同じ会社内でも部によって違ったりして、自分に合った将来について考えるよいきっかけとなりました。

見学の後は長島スパーランドに行きました。短い時間でしたが、仲間と充実した時間を過ごすことが出来、良い思い出となりました。



研修旅行について

私達は京都府宇治市に行きました。はじめに平等院で鳳凰堂と鳳翔館を見学しました。建築史の講義で学んだ平安時代後期の建築である鳳凰堂を、実際に自分達の知識と照らし合わせながら見て素晴らしさを実感しました。鳳翔館では、国宝の建物の景観を損なわないように建物が地下に埋められていたり、動線の長さを感じさせない空間展開がされていて、緻密に計算された建築家栗生明の設計を学ぶことが出来ました。その後、事前にクラスのみんなで調べた情報をもとに、宇治の街を散策し、モダンな建物やお茶の香り漂う街を満喫しました。

研修旅行を終えて

電気情報工学科 第3学年 林立喜

3Eの研修旅行は住友電工の大阪製作所の見学でした。私はここでたくさんのことを勉強させてもらいました。まず思ったのが社会人としての自覚です。住友電工では私が思う以上に安全面に配慮されていました。いたるところに安全第一と表記されており、工場外でもヘルメットをしっかり着用して仕事をされている姿から、働く環境に対する意識付けがしっかり成されていると実感しました。また働くことへの意識も変わりました。住友電工の主力製品は銅線です。正直銅線はマイナーであり、車やコンピュータなどのメジャーな製品に比べると、見学する前は退屈な気持ちでした。しかし実際見学してみると、たとえ人の目に行き届かない製品であっても私たちの生活を支えているのは確かなことです。その製品が日本だけでなく、世界各地に輸出されていると考えるととてもワクワクしました。私もどんな職場であっても人の役に立てる仕事ができることに誇りをもって働きたいと思いました。

研修旅行を終えて

環境都市工学科 第3学年 桐山 卓大

私たち3Cは三重県にある中部電力の川越火力発電所を見学させていただきました。川越火力発電所では、所員の方に発電所の役割や仕組みを教えていただき、施設の見学をしました。この発電所は、最大出力が480万kWもあり、日本でも4番目に大きく世界でもトップクラスの出力を誇っているそうです。見学では、より高い熱効率、省エネ効果を得られる高効率コンバインドサイクル発電方式を採用したタービン発電機などを見学させていただきました。ここでは結構な距離があるにもかかわらず、室温が高く大きな音がして、発電量の大きさを五感で感じることができました。見学後は、長島スパーランドへ行きクラスの仲間と楽しく過ごすことができ、充実した一日であったと感じています。



建築学科 第3学年 夏目 妃那子



学生受賞等

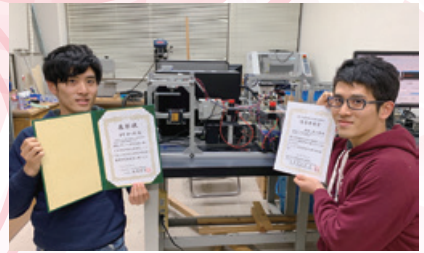
狙って獲った発表賞

専攻科 先端融合開発専攻 第2学年 浦崎 幹八郎

平成30年3月2日に名古屋大学で開催された、平成29年度 土木学会中部支部研究発表会において優秀研究発表賞をいただきました。表彰の対象となった研究発表テーマは、「硫酸塩を含む電子産業排水の嫌気性処理の適用性と有機物分解過程の調査」です。

Society 5.0の到来にあたり、電子機器の製造量・使用量はさらに増加すると言われております。これに伴い、電子産業排水が増加することは明らかです。私の研究では、この電子産業排水を持続可能な処理手法である嫌気性処理によって処理し、その適用性および含有有機化学物質の分解過程に関する調査を行いました。

この賞の受賞にあたり、実験方法やプレゼンテーション手法に留まらず、日本語の書き方から、発表賞の狙い方までご指導をいただいた角野晴彦先生に厚く御礼を申し上げます。



第61回自動制御連合講演会優秀発表賞を受賞して 専攻科 先端融合開発専攻 第2学年 浦崎 新八郎

私は、2018年11月17~18日に南山大学で開催された第61回自動制御連合講演会で優秀発表賞を受賞しました。この講演会はシステム制御情報学会、計測自動制御学会、日本機械学会など多数の学会の制御部門が合同で開催する、制御のための講演会です。制御理論の開発・実装から機械学習と自動制御の融合までさまざまな発表がされ、とても刺激を受けました。私は、磁気浮上を用いた非接触搬送技術において、通常は無視される物理特性を活かすことにより、工場などの生産現場でも利用しやすい実用的な制御手法を発表しました。発表後の質疑では大学の先生から今後の研究に活かせるアイデアを頂くなど、とても有意義な発表となりました。今回の受賞において御指導頂きました小林先生をはじめ、お世話になった皆様には深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



IEEE Nagoya Section Conference Presentation Award (米国電気電子学会名古屋支部国際会議研究発表賞)を受賞して

専攻科 先端融合開発専攻 第2学年 馬淵 俊弥

私は、専攻科において、地球温暖化やエネルギー問題の防止に貢献する高効率なモータを自動車などの産業に応用しやすいようなシステムを構築し、そのシステムを用いてモータを制御する研究を行っています。

国際会議“20th International Conference on Electrical Machines and Systems (ICEMS2017-Sydney)”において、オーラルセッションにて2件の論文の発表を行ったことが評価され、IEEE Nagoya Section Conference Pre-sentation Award を受賞しました。そして、この研究をさらに進めて“International Conference on Electrical Machines (ICEM2018-Greece)”での発表も行いました。

今回の受賞を励みに、これから一層精進していきたいと思っております。最後に、ご指導いただいた先生方、先輩方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



国際会議 ICEM2018-Greece で訪れたアテネのパルテノン神殿にて

「土木情報学シンポジウム優秀発表賞」を受賞して 先端融合開発専攻 第1学年 長屋 佑美

平成30年9月28日に開催された第43回土木情報学シンポジウムにおいて、優秀発表賞をいただきました。研究題目は「UAV-SfM/MVS 測量における構造物の再現性向上のための最適条件の検討」です。UAV-SfM/MVS 測量は、UAV を活用した最新の測量技術であり、近年、UAV の普及とともに実務にも次々と導入されつつあります。しかし、UAV-SfM/MVS 測量の計測方法や解析方法については不明確な部分もあり、様々な研究において課題が明らかにされています。そこで、本研究では、岐阜高専の校舎を対象に UAV-SfM/MVS 測量を実施し、UAV の撮影条件の違いによる 3D モデルの再現性を検証しました。

シンポジウムに参加したことで、自身の研究成果を多くの人に知ってもらえただけでなく、様々な研究発表を聞くことで新たな知識を得ることができ、とても良い経験となりました。今回の受賞を糧に、今後も意欲的に研究活動に取り組んでいきたいと思っております。



ネットワーク大学コンソーシアム岐阜「学生による地域課題解決提案事業」成果報告会 W 受賞

環境都市工学科 廣瀬 康之

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜平成30年度「学生による地域課題解決提案事業」成果報告会が12月22日に岐阜大学サテライトキャンパスで開催されました。2会場に別れて23件の発表がありました。年々クオリティが上がり、とても充実していました。岐阜高専から3件発表しました。審査結果は会場毎に1位・2位が表彰されます。

第1会場第2位に、都市工学研究室「鉄道沿線まちづくりの調査と啓発活動」の、5C 岩田治樹君、5C 上野樹君、4C 矢籠原光君、4C 矢崎博之君、5E 山田啓允君、3C 安田涼君、1C 加藤由都君、1C 鳥居大和君、1C 中神光汰君が受賞しました。また第2会場第2位に、都市工学研究室&コンピュータ倶楽部「防災情報システム開発と防災減災まちづくりの啓発活動」の、4C 傍嶋遥音さん、4C 大倉野傑君、4C 中村美沙希さん、4C 若原巧実君、4C 柴彩夏さん、3C 中村星南さん、5E 丹羽拓実君、4E 中本有紀君、1E 戸松準貴君が受賞しました。ともに、ものづくりリテラシー教育実習の一環としても活動しています。

今回、岐阜高専から W 受賞となりました。ご支援ご協力いただけました皆様に感謝申し上げます。



教職員受賞コメント

土木学会中部支部功績賞を受賞して

岐阜工業高等専門学校長 伊藤 義人



土木学会には、学生時代に入り、約45年が過ぎようとしています。学生会員から始まり、正会員を経て、現在はフェロー会員となっています。土木学会中部支部の役員として、助教時代から幹事をして、その後、幹事長、商議員、支部長をし、現在は顧問をしています。幹事長と支部長の両方を経験した人は少ないと思います。土木学会本部の理事会にも、幹事長と支部長のときに毎月出ました。土木学会中部支部は、今年80周年を迎えており、記念行事も実施されています。今年5月に開催された、平成29年度支部総会で、中部支部功績賞をいただきました。受賞資格が65歳以上で、支部に貢献があった人ということで、感慨深いものがあります。

国立高専教員顕彰分野別優秀賞を受賞して

機械工学科 本塚 智



本賞は“技術者・研究者の経験を活用した教育・社会貢献”という題目でいただきました。私は短い期間ながら企業で設備設計に従事した経験があり、これを活かして、担当させていただいている材料学の授業でちょっとしたエピソードを紹介したり、教科書と実際のエンジニアの仕事のつながりを紹介したりしています。また、早いもので岐阜高専で研究者としてのキャリアを9年積ませていただきました。最新の研究と教科書の内容には大きな距離があるように思いますが、実は両者の距離はそれほど大きくなく、授業では今学んでいる基礎が、逆にどのように先端の研究につながっているのか説明して、少しでも工学に興味を持ってもらえたらと考えて授業をしています。本受賞をきっかけに、今後ますます良い教育ができるように精進してまいります。

電気学会優秀技術活動賞技術報告賞を受けて

電気情報工学科 所 哲郎



設立130年余の歴史を誇る電気学会から各専門分野の技術報告が刊行され、平成30年末には第1,445号が発行されている。所は平成22年からポリマーがいし関係の調査専門委員会に幹事として携わり、前年度の1,383号に引き続き、本年度は1,325号により連続受賞となる栄誉を頂く事ができました。大震災後に研究成果が改めて見直されつつあるのと思っています。

電気学会技術報告には、平成4年の第408号の一部の執筆に携わったのが最初で、その後、第593号、第694号、第948号、第1,071号、第1,325号、1,383号と続き、今回で3度目の受賞に到りました。全国の大学・企業・研究機関の約30人の委員の一人に選ばれ、岐阜高専での約30年間の調査研究成果が評価されたことを、本校関係者として誇りに思います。

「地盤工学会功労章」および「日本陸上競技連盟高校優秀指導者章」を受けて

環境都市工学科・陸上競技部 顧問 吉村 優治



この度、平成29年度「地盤工学会功労章」（公益社団法人地盤工学会）、平成30年度「高校優秀指導者章」（公益社団法人日本陸上競技連盟）をいただくことができました。

大学院（修士課程）を修了して直ちに高専に着任してから、教育、研究、地域貢献に関して、バランスよく取り組むことを目標にしてきました。

地盤工学では、地盤工学会中部支部の幹事、副支部長、評議員の役職を歴任、また本部では事業部入門書等企画委員会で委員、幹事、委員長として、主として入門書の企画、出版に尽力したことを評価していただきました。

陸上競技では、本校の陸上競技部員を永年指導し、インターハイ選手の輩出、日本ユース・ジュニア選手権、国民体育大会の入賞選手育成を評価していただきました。

私の研究分野の中心である地盤工学会、日本陸上界の頂点である日本陸上競技連盟から表彰されたことは身に余る光栄であり、定年を迎えるまでのあと5年間も頑張れとの激励であると受け止めております。今後も高専の教員らしく、教育、研究、地域貢献の分野で社会に役立つ活動を続けていきたいと思っております。

土木学会シンポジウム優秀講演者賞を受賞して

環境都市工学科 水野 剛規



平成30年7月24日、25日に土木学会本部（東京）で開催された第21回性能に基づく橋梁等の耐震設計に関するシンポジウムにおいて、「ロッキング橋脚の自立化に伴う基礎への地震作用軽減のための免振・制震機構」の題目で発表し、優秀講演者賞を頂きました。2016年の熊本地震では、ロッキング橋脚を有する橋である府領第一橋が落橋したことにより、現在国内では同形式の橋梁の耐震補強が急ピッチで進められています。その中で、本研究は、ロッキング橋脚の柱基部の浮き上がりを許容するとともに柱基部に軸降伏型ダンパーを付加して橋脚に免震機能を持たせることで、基礎に作用する地震力を緩和し、大規模補強を回避する方策を提供するものです。本成果は、本稿と前後して土木学会論文誌に掲載される予定です。

平成29年度土木学会論文奨励賞を受賞して

環境都市工学科 菊 雅美



「LMSを利用した効果的な水理実験実施のための教材開発に関する研究」と題した論文に対し、平成29年度土木学会論文奨励賞をいただきました。本論文は、環境都市工学科第4学年の水理実験のために作成した教材とその効果をまとめたものです。実験は授業で学んだ理論を体得する絶好の機会ですが、現実には必ずしもそうならないというジレンマに駆られ、教材開発に至りました。本論文は共著者の渡邊和也氏（H29年度卒）の卒業研究を基に執筆しており、渡邊氏の頑張り無くして本研究を完遂することはできませんでした。渡邊氏に深く感謝いたします。また、教材開発には学習管理システムLMSを利用し、実験中は学生がデータ整理を行えるようSurfaceをお借りしました。いずれも本校に整備されているもので、これらの利用環境がなければ本研究を遂行できませんでした。これらの整備にご尽力くださった皆様と管理・運用してくださっている皆様に御礼申し上げます。

校内ニュース

平成31年度入学者選抜検査

平成31年度入学者選抜検査を次のとおり実施しました。

- 推薦**／願書受付：1月8日（火）～1月11日（金）必着
 選抜検査：1月19日（土）面接
 内定発表：1月23日（水）
- 学力**／願書受付：1月28日（月）～2月1日（金）必着
 選抜検査：2月17日（日）理科、英語、数学、国語
 検査会場：本校
- 帰国子女**／願書受付：1月8日（火）～1月11日（金）必着
特別選抜 ※志願者なし
合格発表／2月22日（金）10時（推薦選抜合格内定者含む）

学科名	内訳 定員	志願者数				倍率 (帰国子女を除く)	合格者数
		推薦	帰国子女	学力	計		
機械工学科	40	15(1)	0(0)	65(1)	80(2)	2.00	42(2)
電気情報工学科	40	25(8)	0(0)	60(6)	*85(14)	2.13	42(9)
電子制御工学科	40	22(2)	0(0)	60(2)	*82(4)	2.05	42(2)
環境都市工学科	40	22(14)	0(0)	51(11)	*73(25)	1.83	42(20)
建築学科	40	38(25)	0(0)	63(25)	*101(50)	2.53	41(23)
合計	200	122(50)	0(0)	299(45)	421(95)	2.11	209(56)

() 内は女子で内数

*電気情報工学科、電子制御工学科、環境都市工学科、建築学科の志願者数計は推薦による選抜の結果、不合格となり、学力検査による選抜を志願した27名を含む。

平成31年度学生会役員



【前列】

- ①学生主事 山本 浩貴
 ②校長 伊藤 義人
 ③会長 森 晴樹
 ④副会長 服部 右京

【後列】

- ⑤報道局長 佐々木 洸弥
 ⑥風紀局長 青木 颯
 ⑦体育局長 伊藤 誠吾
 ⑧文化局長 後藤 健太
 ⑨会計局長 川尾 萌
 ⑩書記局長 酒匂 大輝

平成30年度後期寮生会役員

後期寮生会役員は9月の後期寮生会役員研修で決定した方針と計画のもとにクリスマス会、スキー研修、成人祝賀会等の行事を実施し、雄志寮の運営を務めてきました。

役職名	学年	学科	氏名
寮長	4	M	服部 右京
副寮長	4	A	後藤 建太
書記長	4	E	森 晴樹
広報委員長	3	C	深川 尋斗
会計委員長	4	M	伊藤 誠吾
厚生委員長	4	C	佐々木 洸弥
文化委員長	3	A	山本 大翔
企画委員長	3	A	岩嶋 亮佑
会計監査	3	M	上田 彩人

副校長（寮務主事） 麻草 淳

役職名	学年	学科	氏名
会計監査	3	D	中野 剛志
A寮総代	3	E	大塚 恭平
B寮総代	3	A	岡本 大輝
C寮総代	3	C	栗山 右伍
D寮総代	4	A	酒匂 大輝
第1女子寮総代	4	C	澁谷 真由
第2女子寮総代	3	D	岩島 愛里
留学生寮総代	4	A	キム
選挙管理委員長	3	M	後藤 匠

第57回東海地区国立高等専門学校体育大会

主管校 鈴鹿工業高等専門学校

種目担当校	実施種目（16種目）	実施日
鈴鹿	陸上競技	7月6日（土）・7日（日）
	テニス	7月6日（土）・7日（日）
鳥羽	バドミントン	6月29日（土）・30日（日）
岐阜	ソフトテニス	7月13日（土）・14日（日）
鈴鹿	空手道	6月29日（土）
鳥羽	サッカー	7月6日（土）・7日（日）
沼津	柔道	6月29日（土）・30日（日）
岐阜	バレーボール	7月6日（土）・7日（日）
豊田	硬式野球	6月22日（土）・23日（日） 予備6月24日（月）・25日（火）
	剣道	7月6日（土）・7日（日）
豊田	ハンドボール	7月6日（土）・7日（日）
	卓球	6月29日（土）・30日（日）
沼津	水泳	7月13日（土）・14日（日）
鈴鹿	バスケットボール	6月29日（土）・30日（日）
豊田	弓道	6月29日（土）
沼津	ラグビーフットボール	10月27日（日）

第54回全国高等専門学校体育大会

担当校：大島商船高等専門学校／広島商船高等専門学校

開催校	競技種目	競技日程
広島	陸上競技	8月17日（土）～18日（日）
松江	バスケットボール	男子 8月24日（土）～25日（日）
		女子 8月24日（土）～25日（日）
呉	バレーボール	男子 8月31日（土）～9月1日（日）
		女子 8月31日（土）～9月1日（日）
大島	ソフトテニス	8月31日（土）～9月1日（日）
米子	卓球	8月24日（土）～25日（日）
米子	柔道	8月24日（土）～25日（日）
大島	剣道	8月24日（土）～25日（日）
津山	硬式野球	8月20日（火）～22日（木）
呉	サッカー	8月21日（水）、22日（木）、 24日（土）、25日（日）
神戸市立	ラグビーフットボール	1月4日（金）、5日（土）、 7日（月）、9日（水）
徳山	ハンドボール	8月24日（土）～25日（日）
宇部	テニス	8月21日（水）～23日（金）
大島	バドミントン	8月31日（土）～9月1日（日）
広島	水泳	8月24日（土）～25日（日）

第56回東海地区国立高等専門学校体育大会成績結果

競技名	成績
ラグビーフットボール	優勝 全国大会に出場したが2回戦で敗退となった。

コンテスト報告

アイデア対決・全国高専ロボコン2018 東海北陸地区大会成績結果

競技課題	成績
Bottle-Flip Café	Aチーム Bython 3.X (パイソンサンテンエックス) 予選敗退 Bチーム ButLamb (バトラム) ベスト10 全国大会出場

高専ロボコン3年ぶりの全国大会

ロボット研究会 顧問 **田島 孝治**

今年の高専ロボコンのテーマは「Bottle-Flip Café」であり、ペットボトルを最大2.4mの高さのテーブルに立たせる競技でした。今回の競技は自動ロボットを使う点や競技時間を2分としたことなどから、ロボコン史上最高難易度といわれるほどの難しさで、地区大会でも、例年全国大会へコマを進めてくる強豪校が脱落することもありました。そんな中、本校2、3年生を中心としたチームが作ったロボット「ButLamb (バトラム)」が、地区大会での審査員推薦で全国大会へ出場しました。



全国大会ピットで調整中のロボット

岐阜高専チームの全国大会出場は3年ぶりで、全国から集まったロボットに囲まれ、選手もこれまでになく緊張しているようでした。結果は、残念ながら初戦敗退となってしまいましたが、まだこれからロボコンに2年間以上出場できる選手が全国大会へ出場できたことに、多くの期待を感じています。また、初戦の対戦校はロボコン大賞受賞の熊本高専ということもあり、先方の気迫から多くのものを感じることが出来たのではないかと思います。今後も、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

第29回全国高専プログラミング コンテスト報告

電気情報工学科 第5学年 **丹羽 拓実**

私達コンピュータ倶楽部は、活動の一環として毎年「全国高専プログラミングコンテスト」に参加しています。

競技部門には、4年生3人で参加し、広いスペースを用いた陣取りゲームを行いました。パズルを解くプログラムだけではなく、入力のしやすさ、画面の見やすさ、フィールドとの意図疎通にも気を配らなければならない難しい競技でしたが、予選最多得点、決勝トーナメントまで進むことが出来ました。



課題部門には、初挑戦の2～4年生の3人で参加し、入力した文章と画像からAIがPR動画を作成するシステムを発表しました。また、自由部門にも初挑戦の2年生3人で参加し、ドローンで路面を撮影して路面のひび割れ箇所を調査できるというシステムを発表しました。どちらの部門も敢闘賞を戴き、チーム開発やプレゼンのコツなど多くのことを学ぶことが出来ました。

最後に、ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

デザコン(創造デザイン部門) 審査員特別賞を受賞して

環境都市工学科 第5学年 **宮下 侑莉華**

第15回全国高専デザインコンペティションの創造デザイン部門において、審査員特別賞を受賞しました。加藤絢子さん、汲田朱里さん、馬場祐花さん、脇田裕里さんと共に、地域資源を活用した付加価値の高いビジネスモデルとして、「福祉×農園～園児と高齢者の楽しい農業～」を提案しました。私たちの提案では、岐阜市に実際にある施設をモデルに、老人ホームと保育園を一体化すること、体験農園を運営すること、食品廃棄物を堆肥にすること、高専が運営に関わることの4つを掲げました。この提案の一番の特徴は、支出を減らすビジネスモデルであることです。また、モデル施設がある岐阜市は、高齢者や核家族世帯の増加が問題となっています。その中で、老人の健康や子供の健やかな成長、多世代交流を可能とするなども本提案の魅力です。本賞を受賞できたことを大変うれしく思っています。今回の受賞において、ご指導いただきました先生方に深く感謝申し上げます。



パテントコンテストの特許登録について

環境都市工学科 **傍嶋 遥音・宮下 侑莉華・脇田 裕里・中村 美沙希・若原 巧実**

昨年度にパテントコンテスト(主催:文部科学省、特許庁、日本弁理士会、(独)工業所有権情報・研修館)に応募した「防災頭巾兼用ランドセルカバー」を今年度、特許登録することができました。在学中に特許登録まで実現したのは本校初のことだそうです。この提案は、ものづくりリテラシー教育実習の防災啓発活動の一環で開発を行いました。初めは些細な話からだったので特許に登録されたときは非常に嬉しかったです。しかし登録までには様々な苦労もありました。特に請求項という特許の範囲について述べる文章を考える時、普段はあまり使わないような言い回しが多いため、どう言ったらいいのだろうか、非常に頭を悩ませました。担当弁理士の柘植千咲さんと指導教員の廣瀬先生と相談しながら、特許の書類を作成し、申請、審査を経て無事特許登録となりました。今回の経験で特許とはどのようなものなのか、また必要な手続きについてよくわかりました。今後も多様な視点から考え、新しい発想で発明・提案ができるエンジニアになれるように頑張りたいと思います。



クラブ紹介・同好会紹介

ラグビーフットボール部

ラグビー部活動の紹介

建築学科 第5学年 桂川 太一

私たち岐阜高専ラグビーフットボール部は、部員数約25名で高校や高専の大会に向けて日々頑張っています。週4日の練習では基本的な動きからゲームまで、多様な練習を上級生が中心となって行っています。練習では、上級生が下級生にアドバイスをしたり、逆に下級生が上級生に相談したりするなど、部活の中で学年の垣根を超えた仲の良さや切磋琢磨しあう関係がある、和気あいあいとした雰囲気のある部活です。そのため、部員のほとんどが高専から始めた初心者ですがどんどん上達していきます。具体的な実績として、全国高専大会に5年間連続出場しています。今後は全国大会で勝ち進んでいくための練習を部員全員が協力し合って行っています。



明るい部員が多く、経験の有無や学年など関係なく楽しく活動できる部です。ラグビーの事や部活の事で分からないことや興味を持った方は、ぜひ一度見学に来てみてください！

宇宙工学研究会

宇宙工学研究会の紹介

顧問 機械工学科 中谷 淳

2018年4月に宇宙工学研究会 (Space Engineering Research Association, 略称 SERA) が岐阜高専の正式な同好会として発足しました。宇宙工学研究会の目的は2つあります。ひとつは、GPS や天気予報といった現代文明を支える重要な技術である宇宙開発を担う開発集団を目指すこと。もうひとつは、実践的な宇宙開発を通じて、航空宇宙工学科が無い国立高専において宇宙技術者を育成すること。とは言え、発足したばかりで技術力も組織力も大変未熟です。現在は、缶サット甲子園、そして種子島ロケットコンテストといった宇宙工学系コンテストを通じて技術力と組織力を磨いています。



また、2018年12月末に革新的衛星技術実証2号機に搭載する超小型衛星(キューブサット)として、国立高専初となるキューブサット KOKEN-1 が選定されました。高知高専、群馬高専を中心とする国立高専10校(高知、群馬、徳山、香川、新居浜、明石、岐阜、鹿児島、米子、苫小牧)の連携プロジェクトとして開発に臨みます。岐阜高専も顧問主導のもと、"本気"で衛星開発を担う学生と共に、2020年度の打ち上げを目指して衛星開発に邁進します。

空手同好会

空手同好会の紹介

電子制御工学科 第3学年 中野 剛志

空手に興味はありませんか?東京オリンピックに空手が新競技として採用されたことを知っている人も多いかもしれませんが、空手の試合には組手と形の2種類があり、それぞれ異なるルールで競い合います。空手と聞いて危ない、怖いとイメージする人がいるかもしれませんが、現在の空手は安全面を考慮し、防具を装着したうえで技は実際に当てないルールとなっているので安心です。これから間違いなく盛り上がるスポーツですが、残念ながら岐阜高専の空手同好会には人が少ない状況です。空手同好会では、岐阜県の大会に参加できますが、もし人数が増えて部活動になったら高専大会にも参加できます。兼部でも大歓迎です。少しでも興味がある人は、まずは気軽に見学に来てください。

平成30年度 海外インターンシップ 派遣者一覧

平成30年度 包括交流協定等締結大学 留学生受入一覧

専攻科1年(特別実習)

派遣先機関・大学	国名	学生氏名	実習開始日	実習終了日
バンドン工科大学	インドネシア	奥村 奨司	9月3日	9月21日
		久保田 勲太郎		
マレーシア工科大学	マレーシア	飯沼 雅也	9月3日	9月24日
		海老澤 颯		
		高木 郁憲		
ハノーバー大学	ドイツ	足立 将梧	9月10日	9月28日
		筑岡 弘樹		
アイオワ大学	アメリカ合衆国	玉田 一将	9月4日	9月24日
		平澤 彦大		
TYK Limited (株)TYK 海外現地法人)	イギリス	大野 喬史 川口 建人	8月6日	8月24日

(本科生)

派遣先機関・大学	国名	学生氏名	実習開始日	実習終了日
鍋屋バイテック	中国	春日 泰雄	9月10日	9月14日
		服部 右京		
シアトル未来理工系人材育成プログラム	アメリカ合衆国	本科生36名	9月5日	9月13日

大学名	国名	所属	人数	開始日	終了日
リール A 技術短期大学	フランス	学部	2	4月10日	6月22日
アイオワ大学	アメリカ	学部	2	5月16日	6月5日
バンドン工科大学	インドネシア	学部	2	6月5日	7月27日
タマサート大学	タイ	学部	1	6月11日	7月19日
マレーシア工科大学	マレーシア	大学院	2	7月10日	7月27日
ハノイ建設大学	ベトナム	学部	3	7月23日	8月8日
トリノ工科大学	ウズベキスタン	学部	2	7月23日	8月3日
ハノーバー大学	ドイツ	大学院	2	9月3日	9月14日
リパブリック・ポリテクニク	シンガポール	学部	3	10月1日	2月28日